

6. 火気・加熱

理科の実験で、気を付けなければいけない事故の一つが火傷です。

(1) 火傷の防止

● 加熱実験のときは、燃えやすいものを近くに置いてはいけません。

● お湯を使う実験でも、高い温度が必要でないときには、60℃程度の温度のお湯を使います。

● 水蒸気や湯気は高温になっています。火傷をしてしまうので、上からのぞき込んではいけません。



● 長い髪は実験の前に、必ず結んでおきます。

● 実験がある日は、大きな服やひらひらした服などは着てこないようにします。また、上着は脱いでおきます。

(2) 突沸の防止



そうならない
ために…



約3mm

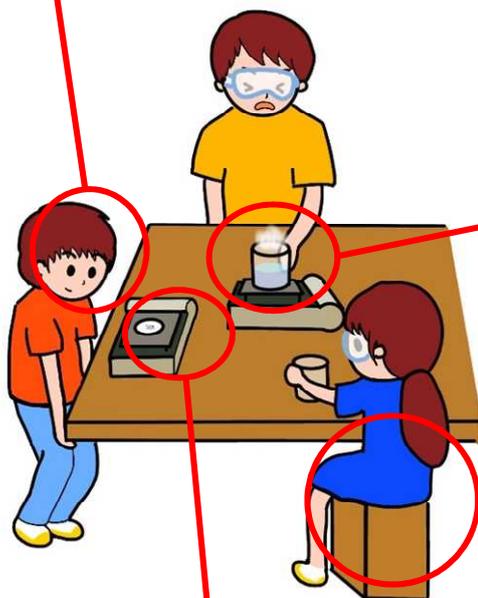


水を熱し続けていると、突沸する
(急に泡立ち吹き出す)ことがあります。

水を沸騰させるときは、突沸を防ぐ
ために必ず沸騰石を入れましょう。



- 加熱のようすを観察するときには必ず保護眼鏡を使います。



- 加熱した容器（蒸発皿，試験管，ビーカー，集気びん等）や，鉄製スタンドなどは，冷めるまで触ってはいけません。

- 実験するときには椅子をしまっ，立って行います。

- 蒸発皿を使って液を加熱するとき，出てきた固体がはねることがあります。液が残っているうちに熱するのをやめます。

(3) 加熱器具のポイント (実験用ガスコンロ)



ガスボンベの切れ込みにそって，カチッと音がするまでさし込まれているか確認します。

ガスボンベをたたいたり，落としたりしてはいけません。